

特定非営利活動法人
日本雲南聯誼協会
【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1階
Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261
Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel: +86-871-3311468 Fax: +86-871-3320658
編集・発行人 初鹿野惠蘭
印刷協力 暉日経印刷 暉技術評論社

彩雲の南

Japan Yunnan
Friendship Association

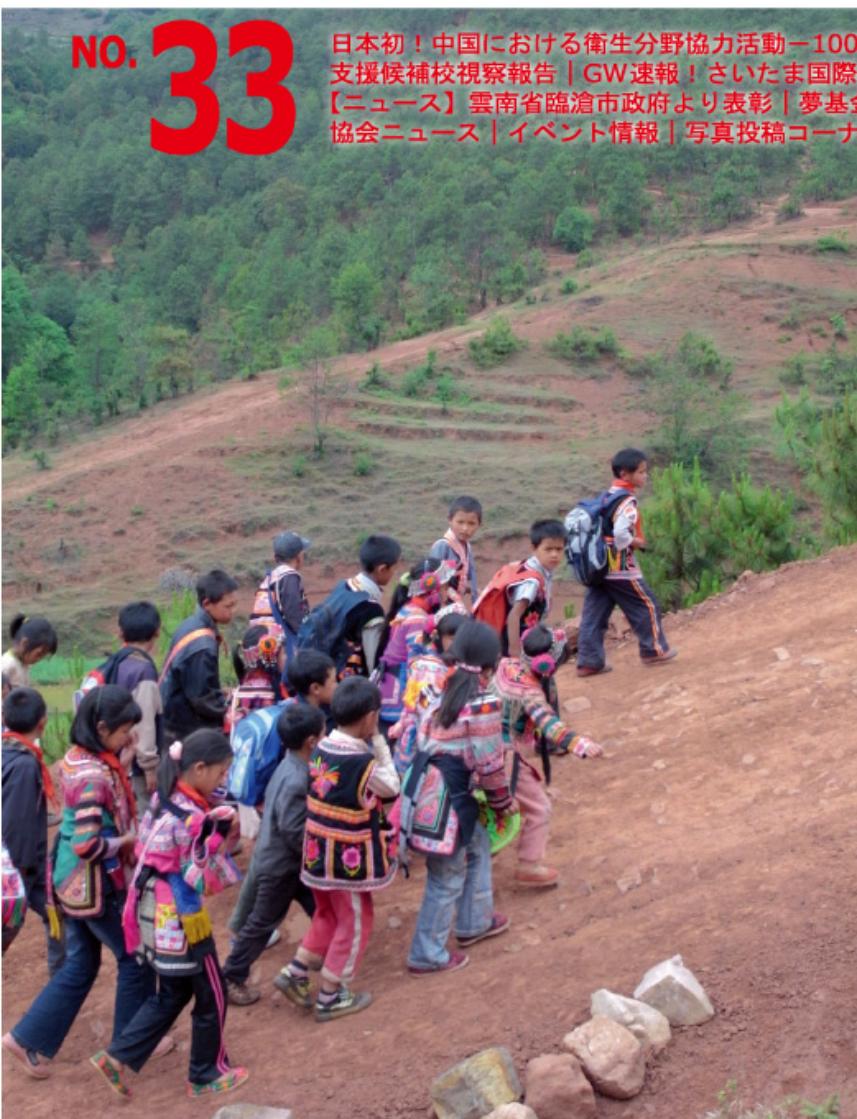
第33号

発行日 2010年(平成22年)5月15日

会報

NO. 33

日本初！中国における衛生分野協力活動—100万回の手洗いプロジェクト特集...2頁
支援候補校視察報告 | GW速報！さいたま国際友好フェスティバル...3頁
【ニュース】雲南省臨滄市政府より表彰 | 夢基金卒業生インタビュー | 連載 他...3頁
協会ニュース | イベント情報 | 写真投稿コーナー 他...4頁



森を育てるには十年かかるが、人を育てる
ためには百年を掛ける必要がある

百年育樹



森林小学校の児童たちと交流する杉谷先生

無償の愛、雲南の地を潤す

協会設立10周年に寄せて

杉谷隆志

10周年とは、感無量である。協会発足時、私は中国の書画界との友好交流にあけくれていて、すでに70歳だった。すでに、およそ20年前、中国の山河を駆け巡り墨で描き続けていたので、古希記念『中国百景画展』を北京、上海、東京の3箇所で開催して成功させ、全力投球20年の疲れを休め、一息ついているときだった。その後、自宅を耐震住宅に改築してくれた桂理事から、當時遼寧のように初々しく、パワーを秘めていた初鹿野惠蘭を紹介され、私の好きな雲南出身で、少數民族の住む僻地の村に学校を建てたいという思いを聞き、その情熱のとりこになった。

惠蘭の情熱は有能な人材を多数集め、学校建設の経済的

支援をしようとする有志も次々に参加して、現在は22校目を建設中という素晴らしい成果を上げている。またトンパ文字を紹介する出版をしその版権を雲南省に寄贈したり、日中の墨絵の交流会やその日本への紹介出版も回を重ねている。小学校建設の調査や開校式への参加など、観光も含め文化交流活動の輪も広がっている。教育関係では、学校建設支援ばかりか、大学院での夏期集中セミナーや大学教授陣の招聘、最近では優秀な女子高校生の育英資金を提供する教育里親制度もスタートしており、また小さなカメラマンのプロジェクトでは、雲南の子供たちの眼を通じた現地の生き生きとしたメッセージが届けられ始めている。さらに日本と中国の小学生達が自分達の夢や楽しみを絵と文字に表現し、交流する小さな壁新聞のプロジェクトが立ち上がりつつあると聞いています。健康関係では、外務省からも支援を頂き、100万回の手洗いプロジェクトでは、現地の先生方や父兄を巻き込んだ実績をあげることができた。環境問題でも、現地の企業と日本の企業が何度か交換の機会を実現し、雲南省の豊かな自然の産物を产业化するためのバイオ企業代表団を招くなど、協会

の教育、文化、健康の3本の旗印を掲げた活動は、先年の日中正常化記念事業にも3つのプロジェクトが日中両政府の認定を受けている。

初鹿野理事長の捨て身の行動力は抜群で、私は「現代のジャンヌ・ダルク」と呼んだことがある。弱者救済の精神はナインゲールに倣えてもよい。有能な会員をひきつけ、日本・中国の政府機関まで動かすようになり、事務所は技術評論社を勤め、そのご厚意を受けています。

かくて10年が経った。私はその後も水墨画を通して中国との交流を続いているので、表に出ないようしているが、ボランティア精神は負けないつもりだ。この10周年の実績には、多数の無償の愛が充満している。国境を越えて教育を支援するのは、貧困をなくし、将来の国際平和を視野に入れているといつてもよい。10年で地盤を築いたのは協会会員全体のボランティア精神を讃えたい。今後も益々の結束と協力を心からお願いします。

(協会専務理事・里美会会長)

日本で初めて！中国での保健衛生プロジェクト 「100万回の手洗いプロジェクト」第1年次終了！

現地活動

第1年次には、合わせて3度の現地派遣活動が行われました。主な目的は施設建設の視察と先生方への衛生授業研修で、プロジェクトチームが現地で活動した合計日数は282日にも及びます。



8月の星明研修。楽しい衛生授業・初めてのパネルシアター（動く紙芝居）作りに挑戦！さすがは先生、皆さんなかなかお上手。

私が担当しています！
中野 幸昌さん

JICA側の担当者として、事業相談、審査手続、契約交渉、複数種認定及び事業評価などを実行しております。

昨年6月、現地視察の機会に恵まれました。どのかな田園風景の広がる雲南省。でも村に一歩足を踏み入れると、そこにはゴミと黄土にまみれた不衛生な土地であることにショックを受けました。学校建設も必要だけど、手洗いを通じて衛生環境を良くすることがもっと必要なんですね」と事業相談の際に切り口と訴えられた貴重スタッフの想いが痛いほどに分かりました。様々な困難にも直面しているようですが、それを乗り越え、日々手洗い習慣が定着しつつあると伺っております。これからもプロジェクトの成功のため、JICA側よりできる限りのサポートをしていきたいと願います。

（JICA地球ひろば・市民参加協力調整員）



8月末、白雲小学校で行われた出張研修では、実際に子供たちも授業を体験しました。プロジェクトが実施した衛生授業は大好評！

研修に協力してくれたボランティアは日本合わせて25人。本番前の3日間に及ぶリハーサルも精力的にこなしてくれました。写真は2月の研修リハーサルにて。お手本のポスターを作る姿は真剣そのものです。



先生方への研修は8月と2月、それぞれ3日間の日程で行われました。研修の目的は、楽しく学べる体験型衛生授業のノウハウを伝授すること。白雲小学校での出張研修も合わせて、のべ56人の先生方が参加しました。



体験型衛生授業の具体的な方法として、2回の研修を通じポスター・ペーパーサート（紙人形劇）・パネルシアターの製作を通して学ぶ授業を提案。先生方に実際に体験してもらいました。2月の研修では学校ごとに衛生授業の計画と人形劇のシナリオを作成。個性的な衛生物語が出来上がりました！

この後、先生たちは研修で作った授業計画とシナリオをそれぞれの学校へ持ち帰り、今度は子供たちと一緒に実践します。プロジェクト第2年次では、学校に持ち帰られた衛生の知識や授業の実践によって起こる変化を追跡していきます。引き続きどうぞ注目ください！

フォローアップとして始まりは2007年5月、白雲小学校の開校式。村の悲惨な衛生状態を目の当たりにした協会は、子供たちが真に安心して学べる環境を作るため保健分野の技術協力への挑戦を決意しました。

ソフトもハードも衛生習慣を身につけるには、意識改革とともに実践する環境も不可欠。プロジェクトではソフト面での支援と、シャワー室・太陽熱温水器・手洗い場の設置などハード面の支援両面を行いました。

専門家JICA「NGO技術者派遣制度」を利用して、薄田栄光公衆衛生専門家が2007年12月の現地基礎調査に同行、その後もプロジェクトマネジャーとして引き続き活躍中です。2009年7月には、外部専門家として斎藤順子さんが新たにプロジェクトメンバーに加わりました。

運営は2人3脚プロジェクトはJICA草の根技術協力事業として、資金は全額ODAによって賄われ、中国政府の承認も受けています。プロジェクトはJICAと協会、日本と中国の2人3脚で進められているのです。JICAにとっても初めてという中国での保健分野の草の根支援プロジェクトは、良いモデル事業になることが期待されています。

第1年次 プロジェクトの実績

小学校で初の試み！ バイオガストイレを導入

支援第4校 日中藤誼僑愛小学校

2005年11月開校・怒江リス族自治州福貢県・リス族

★2回の研修にのべ12人の先生が参加しました。
★プラスチック製のバイオガストイレ、太陽熱温水器、シャワー室を設置しました。

バイオガストイレの設置により、今まで怒江に垂れ流しだった人糞を資源として活用するに同時に、エネルギー源も確保できる様になりました。温暖な気候がガス発生に適していることや個々の農家に需要があることから、雲南省では研究・実用が進んでいますが、小学校への導入は今回が初めてで、バイオト事業としての価値と宣伝効果が期待されます。

他にも…衛生改善の意識を地域に拡大するために、衛生授業の研修には上記3校の他、地域の中心小学校の先生にも参加してもらいました。

★達福中心小学校（怒江）

★2回の研修にのべ17人の先生が参加

★匹河中心小学校（怒江）

★2回の研修にのべ9人の先生が参加

支援第7校 日中果科僑心小学校

2005年8月開校・怒江リス族自治州福貢県・独龍族とミャンマー族

★2回の研修にのべ4人の先生が参加しました。

国の方針でゆくゆくは中心学校に統合されることが明らかになったため、施設建設の予算は同地域の中心学校で、拡充方向にある藤竜小学校の施設改善に振り分けられました。



プロジェクト名「雲南少数民族地域での学校を中心とした健康・環境衛生改善プロジェクト」
(愛称：100万回の手洗いプロジェクト)

プロジェクト期間：2009年6月～2010年12月

プロジェクト対象：3つの小学校の生徒630人と教師50人、地域に住むすべての人々

給水タンクは干ばつで大活躍！

支援第11校 白雲小学校

2007年5月開校・紅河州建水県・イ族

★2回の研修にのべ14人の先生が参加しました。
★給水タンク、手洗い場、シャワー室、太陽熱温水器を設置しました。

手洗い場に5トンの給水タンクを設置し、13個の蛇口を取り付けました。これにより、トイレ掃除のための水が確保できるようになりました。また、子供4人が一度にシャワーを浴びられるシャワー室、寄宿舎の屋上には5トン・2トン・0.5トンの給水タンクを設置。2トンタンクはお湯専用で、1日陽があると30人の子供がシャワーを浴びられます。



特に中国人ボランティアは、場を盛り上げ、研修に参加する小学校の先生たちとの仲介役となり良好なコミュニケーションをもたらしてくれた。研修に参加した先生たちは紙人形づくりやロールプレイなどに戸惑いながらも一生懸命やってくれた。

小学校には手洗い場やシャワー用の温水器が設置された。プロジェクトが提供する施設や教育研修の完了をもって、プロジェクトが成功ということではない。このプロジェクトで先生と子供たちは何を得たか、あるいは得るであろうか。100万回のプロジェクトにとってむしろ自分たちで対処できる範囲が広がることが重要であり、今後はそれを追跡していくことになる。

薄田栄光 プロジェクトマネージャー



視察報告

次なる支援候補校—
昭通市大闊県寿山郷 甘海村小学校

4月17日、当協会雲南支部スタッフが、地元政府及び学校関係者の案内で、支援候補校である昭通市大闊県寿山郷の甘海村小学校を視察しました。

寿山郷は昭通市大闊県中部に位置し、県中心部から車で30分ほどの道のりです。甘海村はその寿山郷から8キロの距離にありますが、急カーブの多い砂利道を進むため車で約40分かかります。村の総人口は5745人、イ・ミャオ・独龍・ブイ・漢族などの民族が居住し、主な産業は農業のみで、トウモコシやジャガイモを栽培しています。

甘海村小学校は児童数345人・全7クラスの村の中心小学校ですが、村全体で958人いる学齢児童を収容するには校舎が足りず、現在150人の高学年児童が村から20キロも離れた別の小学校へ通っています。これは受入先の小学校にとっても大きな負担です。



>> 改善が必要な旧校舎

甘海村小学校の設立は1967年で、現在使われている石と木でできた校舎は1980年に建設されたものですが、現在、教育局により危険建設物に指定されています。あちこちが傷んで今にも崩れ落ちそうな校舎は、教室で勉強する生徒や教師の安全を脅かしており、早急な改築が求められています。新しい校舎の建設用地はすでに確保されていて、隣接する土地に12クラスの児童532人、うち寄宿生150人、教職員25人を収容できる校舎・宿舎・事務棟・運動場の建設が計画されています。

雲南支部林姫より：昭通はとても貧しい県で、村の子供たちは外から来る人間を余り見たことがないようでした。恐らく村の外に出ること自体が稀で、外の世界をまったく知らないであろう子供たちが、それでも一所懸命に勉強する姿を目にしても、強く心を打たれました。

雲南省臨滄市政府より

表彰されました！

2010年4月27日から3日間、雲南省臨滄市で、第6回世界雲南友誼大会が開催されました。大会には世界21の国と地域で活躍する雲南出身者とゲスト230名余りが招かれ、協会初鹿野理事長も日本の代表として参加しました。大会中、協会「50の小学校プロジェクト」第18校目となった清平小学校への支援について、臨滄市政府より改めて感謝の意が述べられ、初鹿野理事長が協会を代表して表彰状を受け取りました。

10周年記念式典
開催決定！

2010年7月4日 15:30～
新宿京王プラザホテル 花の間
皆さんのお越しをお待ちしております！



「25の小さな夢基金」卒業生の今を伝えるインタビュー。第2回はイ族の李姪さん。李姪さんは昨年6月に春雷クラスを卒業し、現在は雲南大学で勉強中です。

連載第14回

雲南を彩る
25の星たち中国彝族
CHINESE NUYA

ブーラン族（布朗族）は雲南省特有の民族で、主にシーサンパンナ州のブーラン山に居住しています。総人口は8万人余り、文字は持たないものの民族独自の言語を保っており、口承により、物語・詩歌・神話・なぞかけなどのブーラン文学が現在まで伝わっています。宗教は土着の先祖崇拜も残っていますが、多くは小乘仏教を信仰しています。

ブーラン族の人たちは主に農業に従事し、ブーアル茶の栽培でも有名です。ブーランの村は單一あるいは複数の氏族から構成され、人が亡くなると、家ごとではなく村全体の共同墓地に葬られます。特徴的な風習のひとつに結婚式があり、ブーラン族の夫婦は、生涯2回から3回の婚礼を執り行うといいます。また、ブーランの人々が多く暮らすブーラン山には、今でも母系社会の風習が残っており、生まれてきた子供に母親の名前をつけるそうです。

雲南の他の民族同様、ブーラン族も踊りが好きで、舞踊は土地によって様々な名前で呼ばれています。そのうち、景東地域の「跳歌」は歌いながら踊るという意味で、正月や節句の度に、真夜中まで歌い踊り続ける熱狂的なものです。ブーランの子供たちは、幼い頃から様々な楽器の演奏とたくさんのメロディーを覚えます。

(雲南支部)

25の小さな夢基金
応援ありがとうございます！

貧困地域の少数民族女子を受け入れるために設立された昆明女子中学・春雷高校生クラス。そんな春雷クラスの女子を応援しているのが「25の小さな夢基金」です。お陰さまで、昨年9月に新たに登録された47人の新1年生のうち、これまでに39人のサポートーさんが決まりました。温かいご支援、本当にありがとうございます！皆さんの支援のお陰で、たくさんの女の子たちが安心して勉強することができます。サポートーさん、まだまだ募集中です！



協会ブログ「雲南の郵便屋さん」では、夢基金で応援している女の子たちが書いた作文を連載中です。是非ご覧ください♪ http://blog.canpan.info/yunnan/category_26/



速報!!

さいたま国際友好フェア
今年も大盛況！

毎年ゴールデンウィークに開催されるさいたま市国際友好フェア。今年も5月3日・4日の2日間、さいたま市見沼グリーンセンターで開催され、協会大官支部を含む66の国際交流団体が出演しました。期間中は絶好の好天に恵まれ、たくさんの来場者が訪れました。

協会のテントも大盛況で、協会活動の説明を受ける人、民族衣装を着て写真を撮る人等、スタッフ一同対応に大忙しでした。



ボランティアの皆さん・遊びにいらしてくださった皆さん、どうもありがとうございました！

連載第14回

雲南を彩る
25の星たち

ブーラン族（布朗族）は雲南省特有の民族で、主にシーサンパンナ州のブーラン山に居住しています。総人口は8万人余り、文字は持たないものの民族独自の言語を保っており、口承により、物語・詩歌・神話・なぞかけなどのブーラン文学が現在まで伝わっています。宗教は土着の先祖崇拜も残っていますが、多くは小乗仏教を信仰しています。

ブーラン族の人たちは主に農業に従事し、ブーアル茶の栽培でも有名です。ブーランの村は單一あるいは複数の氏族から構成され、人が亡くなると、家ごとではなく村全体の共同墓地に葬られます。特徴的な風習のひとつに結婚式があり、ブーラン族の夫婦は、生涯2回から3回の婚礼を執り行うといいます。また、ブーランの人々が多く暮らすブーラン山には、今でも母系社会の風習が残っており、生まれてきた子供に母親の名前をつけるそうです。

雲南の他の民族同様、ブーラン族も踊りが好きで、舞踊は土地によって様々な名前で呼ばれています。そのうち、景東地域の「跳歌」は歌いながら踊るという意味で、正月や節句の度に、真夜中まで歌い踊り続ける熱狂的なものです。ブーランの子供たちは、幼い頃から様々な楽器の演奏とたくさんのメロディーを覚えます。

(雲南支部)

卒業生の声

「25の小さな夢基金」卒業生の今を伝えるインタビュー。第2回はイ族の李姪さん。李姪さんは昨年6月に春雷クラスを卒業し、現在は雲南大学で勉強中です。

Q1 卒業してもうすぐ1年ですが、生活はどうですか？ 大学の授業時間はバラバラで、高校時代に比べると自由な時間がが多いです。宿題も高校に比べてかなり減りましたが、授業以上の知識を学ばなくてはならないのでやはりプレッシャーも大きく、大部分の時間を大学で過ごして、勉学に励んでいます。大学は自由ですが、ここでどれだけ学べるかどうかは自分自身の努力いかんだと思っています。課外活動も多く、週末はバスケットボールサークルに参加しています。学校で行われる演劇なども観に行きます。政治学を専攻していますが、将来は故郷の保山に帰って、国や村のために働きたいと思っています。

Q2 今春雷クラスの生徒に一言。春雷は先生と生徒、そして生徒同士の絆がとても深いクラスです。クラスで過ごした3年間は、勉強面はもとより人間としても大きに成長させてくれました。3年間の努力がの人生に大きな影響を与えるので、懸命に過ごし、そこで出会った人を大切にして欲しいと思います。私も高校生の頃、大学入試のプレッシャーで眠れない夜がありました。そんな時、同級生に話を聞いてもらうと不思議なことにすぐ眠ることができました。この3年間で出会った人々は、私にとって大切な宝物です。

Q3 日本の皆さんへのメッセージをお願いします。春雷クラスの学生へのご支援に対し、心より感謝いたします。手紙などの交流を通じ、大切な友人ができました。皆様のご支援があるからこそ、私たちは安心して勉強することができます。

サポートーさんへのメッセージ：年があまりかわらない、明るくて何でも話せる日本の友人が出来てとても嬉しいです。本当に大切な人に会えたことに感謝します。

(取材 = 雲南支部)





2月14日 10周年へのカウントダウン
2009年度第4回役員会

2010年2月19日（金）初鹿野理事長により、2009年度最後の役員会が召集されました。会では直前に終了したばかりの「100万回の手洗いプロジェクト」第3回現地派遣活動や認定NPO申請準備状況についてなどの報告の他、7月に予定している記念式典をはじめ、記念講演会・記念本出版・蔵書寄贈等、協会設立10周年を迎えるに当たっての記念事業について話し合いが持たれました。2010年度は10周年の節目。節目となる年度に初心に立ち返り、雲南の子供たちと日中友好のためより一層有意義な活動が出来る様、地道に誠実に活動を続けていくことを改めて確認する役員会となりました。

第4回役員会出席者（順不同）：杉谷隆志専務理事、遠藤功理事、中村有里子理事、大鷲修平理事、桂正徳理事、山根祥利顧問、小澤文輔顧問、東郷浩顧問、佃純誠監事、薄田栄光（「100万回の手洗いプロジェクト」プロジェクトマネージャー）、鈴木肇（会員／10周年記念企画部長／小さな壁新聞プロジェクトチーム）、狩野千尋（小さな壁新聞プロジェクトチーム）、初鹿野恵蘭理事長、事務局（佐瀬、稻田、山田）

2月25日 皆さんのが主役です！
小さな壁新聞プロジェクト

前号でご紹介した小さな壁新聞プロジェクトが、いよいよ本格的に始動しました。日頃ながら協会を支えてくださっているボランティアや会員の皆さんによって立ち上げられたこのプロジェクトへ、10周年記念式典でのお披露目を目指し、着々と進行しています。2月27日には、3度目となるボランティア運営会議が開催されました。



○ 小菅小学校の子供たちから絵手紙が届きました

プロジェクトではまず、昨年11月末に会員の平田栄一さんが出張授業を行った山梨県小菅村の小菅小学校の子供たちに絵手紙を描いてもらいました。4月頭に絵手紙を回収し、現在はプロジェクトチームが壁新聞の形に仕上げる作業を行っています。雲南側としては、「100万回の手洗いプロジェクト」でもおなじみの協会支援第11校目白雲小学校、第19校目老木霸小学校、そして開校式を目前に控えた第21校目老村小学校の子供たちに壁新聞の制作をお願いすることになりました。皆さんと一緒に建てた学校で、子供たちは何を思って、どんな風に過ごしているのでしょうか。皆さんに便りを届けられるのも、そう先ではないはずです。どうぞお楽しみに！

鏡頭裏的世界 一レンズの中の世界

NO.3 羊に大変身！

牧草地で出会った羊飼いの少年。「写真を撮ってもいい？」とたずねると、「いいよ！」と快諾。でもやっぱり照れくさいようで、羊に似せたマントを頭からすっぽり。（狩野千尋 2003年雲南省東川区大海草山）

皆様のご投稿をお待ちしております！

【データ】 yunnan@jyfa.org
【郵送】〒162-0846 新宿区市谷左内町21-13
日本雲南聯誼協会「会報投稿コーナー」係

3月7日 雲南少数民族との草の根交流
東京たまがわロータリークラブ 創立20周年記念式典

3月7日、協会法人会員である東京たまがわロータリークラブの創立20周年記念式典が、新宿京王プラザホテルにて盛大に行われました。同クラブは20周年記念事業として2008年1月から2009年8月にかけて、老木霸小学校への机・椅子・ベッドの寄贈、「25の小さな夢基金」支援生徒の招聘など、協会を通じた雲南省少数民族の教育支援を行ってきました。記念式典では、初鹿野理事長と当協会会員である三木秀隆ロータリークラブ前会長が、雲南省少数民族の現状及び協会活動や夢基金の生徒たちとの交流事業について参加者の皆様に紹介致しました。夢基金の生徒たちとの心温まる交流の様子は多くの参加者の胸を打ち、のちにサポーターのお申込みをたくさん頂きました。

東京たまがわロータリークラブの皆さん、20周年おめでとうございます。そして改めて、温かいご支援に心よりお礼申し上げます。



3月8日 こちらは女性が主役！
国際婦人デー記念パーティー

皆さんは3月8日が何の日かご存知でしょうか。実はこの日は「女性の日」なのです。元はといえば、1904年3月8日にニューヨークで女性労働者が婦人参政権を要求してデモを起こしたことが起源で、1975年に国連がこの日を「国際婦人デー」と定めました。中国でもこの日は「三八婦女節」と呼ばれ、女性だけにゆるされる祝日となります。

その国際婦人デーに、中国大使館で祝賀記念パーティーが行われました。パーティーには日本各界で活躍する女性400人余りが招待され、そのうちの1人として、協会の初鹿野理事長も出席しました。パーティーでは着任したばかりの程永華駐日大使が、日本社会や日中友好交流事業における女性の役割を高く評価し、中国の「女性は天の半分を支える」という諺を紹介して、女性が社会と家庭に寄与していることに謝意を表すスビーチを述べました。

中国の三八婦女節では、女性にバラの花などの贈り物を贈って日頃の感謝を表すそうです。是非日本でも広めたいですね。

3月18日 まるまる雲南尽くし
雲南省人民政府来日！

3月18日、雲南省人民政府が東京・品川のグランドプリンス高輪で、日中間の経済貿易提携の拡大と両国企業間の連携促進を目的とした大規模な経済セミナーを開催しました。雲南省政府としては実に5年ぶりの来日で、来日代表団も顧問副省長を筆頭に150名にものぼる大規模なものでした。当日は「経済貿易」「観光旅行」「外資導入」の3つのセミナーが同時に開催され、協会はそのうち外資導入セミナーの開催をお手伝いしました。

外資導入セミナーでは、雲南省5大産業のひとつであるバイオ資源開発産業についての紹介や、現地関係部門や現地企業によるプレゼンテーションが行われ、雲南省にあまり馴染みのない参加者たちの関心を喚起しました。

協会設立20周年記念式典

た。更には、各セミナー終了後盛大な合同レセプションを経て、雲南の民族歌舞劇「ヤン・リーピンのシャングリラ」特別公演の鑑賞も行われました。特色ある産業や好調な経済状況など、同協会の岩間顧問（サッポロホーラはじまり、中国の中でもひとときわ多彩な民族文化に至るまで、この日1日で多くの方に雲南の魅力を知って頂けたこと思います。

4月13日 日中友好の架け橋として
中国新大使就任式

4月13日夜、中華人民共和国駐日本国大使館が東京・ホテルニューオータニで程永華新大使の着任レセプションを行いました。当日は日本の経済・文化各界より500名以上が招待され、当協会初鹿野理事長も出席しました。レセプションでは程新大使が「日中二国間関係のよりいっそうの発展のために力を尽くしたい」と熱意あふれるコメントを発表しました。

地道な支援活動を続けていくために、日中両国の理解と協力はなにより欠かせません。私たちの活動が雲南の子供たちはもとより、日本全ての子供たちの未来にとって希望となるよう、努力を続けていきたいと思います。

★最新の協会ニュースはホームページで続々配信中！
http://www.jyfa.org/4_activity/index.html

イベント情報

5月

21日(金)～28日(金) 開校式の旅
第21校老村小学校・第22校陸勤小学校開校式
★場所★雲南省昆明市・文山州
★主催★日本雲南聯誼協会

23日(日) 大宮支部交流パーティー
★場所★大宮支部 ★主催★大宮支部

6月

下旬頃 夢基金・卒業式参列の旅
★場所★雲南省昆明市
★主催★日本雲南聯誼協会

26日(土) 第10回定時総会
★場所★八王子学園都市センター
★主催★日本雲南聯誼協会

7月

4日(日) 協会設立10周年記念式典
★場所★新宿京王プラザホテル
★主催★日本雲南聯誼協会

8月

28日(土) 第6回チャリティゴルフコンペ
★場所★大月カントリークラブ
★主催★日本雲南聯誼協会

ご協力ください

協会の活動は皆様のご厚意によって支えられています。ご入会・ボランティア登録のお申し込みは随時受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。また、カンパは下記口座にてて承っております。1人でも多くの子どもたちに夢と希望を届けるためにも、皆様の暖かいご支援・ご協力を心よりお待ち致しております。

日本雲南聯誼協会
(ニホンウンナンレンギキョウカイ)

三菱東京UFJ銀行 目黒駅前支店
普通口座 1300380

ゆうちょ銀行 00100-8-610935

お詫びと訂正：会報32号ならびに「開校式の旅」ご案内チラシにおいて、兩勒小学校を第21校目、老村小学校を第22校目と表記しておりますが、正しくは老村小学校が第21校目、兩勒小学校が第22校目の誤りでした。訂正致しますとともに深くお詫び申し上げます。